

カノココリの繁殖

カノココリの繁殖には、分球、木子、リンペン、種子による方法があり、通常は、木子及びリンペン繁殖が行われています。一方、実生繁殖は大量生産が可能ですが、開花までに長期間を要し5年目でやっと開花します。このため、種子を高温処理して小球根が生じた種子を播く方法をとると、開花までの期間が1年間短縮されて4年目で開花してきます。

1 種子繁殖

1 1月上旬に採取した種は休眠しているため、すぐに播いても夏を越さないで発芽してきません。秋になると地中で発芽し小球根を生じますが、すぐにまた休眠し地上への発芽は冬の低温を受けて、春になって地上に発芽してきます。しかし、35℃→25℃の温度処理を行うと2月には地下発芽して小球根を生じます。

これを2月に播くと3～4月に地上発芽してきます。温度処理を行ったものは、1年目に1枚の細長い葉は出て、秋には地上部が枯れて休眠します。

2年目は1月～2月に発芽してきます。大部分は一年目よりは幅広い1枚葉ですが、中には茎が伸長し数枚の葉が出るものが見られます。

3年目にはほとんどが茎立ちしますので、11月に掘上げ植替えを行います。

4年目には開花してくるので、6月に蕾を折りとり球根の肥大に努めると、秋には開花球として活用できる大きさになります。

自然状態での実生から開花までの生育状況



1年目 ⇨ 2年目 ⇨ 3年目 ⇨ 4年目 ⇨ 5年目
地下発芽 1葉出芽 広葉出芽 茎立ち 1輪開花
(温度処理では：1年目 2年目 3年目 4年目)



種まき



間隔調整



播種後3年の球根

2 リん片繁殖

繁殖に用いるりん片は、外側の良く充実したものをを用いて行います。りん片を手で根元から一枚ずついねいにはがします。周囲20cm球で10～15枚程度のりん片が得られます。内側のりん片は良い球根が得られないので、外側の大きなりん片を利用します。りん片繁殖は気温の高い時ほどよいが、球根の肥大時期との関係で9月に球根を掘り上げて行います。



外側の大きいりん片を使用

りん片を挿した状態

小球根が生じてきたりん片

3 木子繁殖

カノコユリは、球根の下に出る下根と球根の上の茎からでてくる上根があります。その上根の茎の根のもとにできた小球根が木子です。



通常数個の木子が出る

植付深さと木子の着生状況

木子の直径の3倍の間隔で植える

木子繁殖は最も簡単な方法で、親球があれば木子で増殖できます。木子は球根の茎に必ず付いているとは限りませんが、球根の植付深さと関係が深く、深植えほど着生が多い傾向にあります。

プランターに植える場合は、木子の直径の3倍の間隔・3倍の深さに植えます。用土は、赤玉土小粒、鹿沼土、腐葉土を1：1：0.5の割合で混合したものをを用います。

球根の植え込み

球根の植付は10月が最適です。遅くとも11月には植えるようにしてください。ユリ類は、球根の下と球根の上の茎から根が出ます。肥料を吸収するのは茎からでる上根です。そのため上根が十分に張れるよう深く植えるのが大切です。

植付深さは、球根の高さの2～3倍の深さに植えます。また、3～5球程度まとめて植えた方が豪華になります。植付後は地表面に陽が当たらないように、必ず堆肥等でマルチして下さい。

